

「令和元年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【茨城県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>カタオカ ヒデオ</small> 片岡 秀男
所在地	茨城県北相馬郡利根町
品種名及び作付面積	オオナリ:約8.4ha
10a当たり収量	686kg/10a
地域の平均単収からの増収	185.9kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営(本人、妻、息子の3名と期間雇用延べ10名)により、水稻15.9ha(主食用米(コシヒカリ)を7.5ha、飼料用米(オオナリ)を8.4ha)の水稻単作経営。 ・地域の担い手として、水田作業の受託も行う。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・平成25年から飼料用米の生産を開始し、これまで多収品種である「ホシアオバ」や「夢あおば」などを栽培。 ・近隣である河内町の生産者からの助言により、令和元年の飼料用米は「夢あおば」から「オオナリ」に切り替えた。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・基肥:4月25日 軽量一発077(N-P-K=30-7-7)を45kg/10a【N13.5kg, P3.15kg, K3.15kg】 ・オオナリは出芽揃いが悪いなど、やや育苗しづらいが、育苗期間をやや長めにし(25日程度)、健苗育成に努めている。 ・移植時期は5月初旬(元年は4日~8日)に行っている。 ・栽植密度は50株/坪、植付本数はやや少なめ(疎植になりすぎないように気を付けている)。 ・育苗箱の使用枚数は18枚/10a程度。 ・水管理は生育期間中には深水とし、中干しは軽めにしている。 ・間断灌漑期間にもなるべく水を切らないようにし、風や高温等の気象災害に強い稲づくりに努めている。 ・地域の大規模普通作経営体から品種や技術に関する助言を受けながら、除草管理や水管理を徹底するなど、基本技術を丁寧に行っている。</p>

「令和元年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【栃木県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>クサホナミ トミオ</small> 桑川 富男
所在地	栃木県下都賀郡壬生町
品種名及び作付面積	クサホナミ: 約2.4ha
10a当たり収量	655kg/10a
地域の平均単収からの増収	143.7kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・水稲3.9haと露地野菜(たまねぎ)70aの複合経営。 ・作付け品種は、主食用米(とちぎの星)1.5ha、飼料用米(クサホナミ)2.4ha</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・クサホナミは、対倒伏性に優れ、縞葉枯病に抵抗性があり、多収が見込めること。また、主食用米終了後に収穫を行うことで作業を分散できることから導入。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・施肥は、稲わらのすき込みを行うとともに、基肥としてオール14(14-14-14)50kg/10aを使用。 ・いもち病等の病害予防のため、箱処理剤による防除を実施。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・田植は、疎植栽培(43株/坪)で行い、苗箱使用枚数を10枚/10aと慣行栽培に比べ約半数に削減。 ・出荷先について、粳利用ができる需要者(養鶏場)と契約し、粳出荷を行うことで調整作業を軽減するとともに、フレコン出荷により流通経費を削減。</p>

「令和元年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【千葉県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	安藤 浩一 <small>アンドウ コウイチ</small>
所在地	千葉県匝瑳市
品種名及び作付面積	アキヒカリ:約1.4ha
10a当たり収量	724kg/10a
地域の平均単収からの増収	184.9kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営により、水稲専作で約2.5haを経営。 主食用米(コシヒカリ):1.1ha 飼料用米(アキヒカリ):1.4ha</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・省力化や作期分散が期待されることから、平成27年頃から飼料用米(多収品種)に取り組んでいる。 ・アキヒカリ:約1.4ha ・作付品種は、短稈で倒伏しにくく、多収が見込める「アキヒカリ」を選択した。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・田植:4月24日・25日 ・基肥:宇部高チツソー発早生用(20-12-14)45kg/10a ・除草剤散布やヘリ防除により雑草、病害虫対策を徹底している。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・田植え、基肥施肥、除草剤散布を同時に行うことにより、作業の省力化、効率化を図っている。 ・刈り取りから調製までの主要な作業を共同で実施している。 ・フレコン出荷等。</p>